

平成 28(2016)年 4 月 22 日

高等学校長・中等教育学校長 殿

神奈川県高等学校教科研究会
会 長 反町 聡之
同 社 会 科 部 会
部 会 長 岡 田 健
理 事 長 能 勢 博 之
歴史分科会長 澤 野 理
(公印省略)

社会科部会歴史分科会高大連携講座 ～「近世のアジアをどのように学ぶか2」への参加について (依頼)

新緑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当部会の活動にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、歴史分科会では生徒の学力向上と教員の授業力向上を目的とした夏季研修講座を次のとおり開催いたします。午前中は、難関大学をめざす公立・私立の生徒に対する授業、午後は、その授業についての研究協議です。つきましては、校務ご多忙の折、誠に恐縮とは存じますが、貴校の職員の出張につきまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。また受講希望生徒がおりましたら、担当までご連絡いただければ幸いです。

1 趣旨

近年の高大連携は、高校の教科・科目の内容にも大きく関与するようになってきました。当分科会が平成 19(2007)年度より始めた高大連携講座は、生徒・教員の双方から高い評価をいただき、また、平成 23(2011)年度からはNPO 神奈川歴史教育研究会の協賛をいただき講座の充実につとめてまいりました。その結果、昨年度の講座では3 日間で延べ300 人の生徒・教員に参加いただきました。今年度は、「近世のアジアをどのように学ぶか2」というテーマ設定で、昨年度の学びをさらに掘り下げる内容を目指します。

近世のアジアは、ヨーロッパ人による「大航海時代」に先立つ「大交易時代」の舞台として、また、現代につながる社会の直接の起点として、大学の先端研究のみならず、大学入試の場面においても(日本史・世界史ともに)新傾向の出題が増加傾向にあります。また、今後のアジアを生きる高校生にとって、日本の伝統を良い意味で再考する素材にあふれている時代でもあります。しかしながら、この分野の教材化は、必ずしも充分なものではないという現状があるのも事実です。大学入試問題によく出題され、通常の授業では時間不足等で手薄になりがちな分野をどのように学習するかということを、授業実践や、最近の学会の事情などを踏まえながら大学側と研修を深める意義は大きいと考えます。

2 内容

(1)場所 鎌倉学園高等学校 (〒247-0062 鎌倉市山ノ内 110 番地)

(2)テーマおよび講師

8月1日(月) 「近世の南アジア」

講師 小川 道大(アジア経済研究所) 鈴木 健司(県立横浜明朋高等学校)

8月2日(火) 「近世のアジアとヨーロッパ」

講師 中村 武司(弘前大学) 大西 信行(中央大学附属杉並高等学校)

8月3日(水) 「近世の東南アジア」

講師 蓮田 隆志(新潟大学) 中山 拓憲(県立神奈川工業高等学校)

* 桃木至朗先生(大阪大学)には、3日間を通じてのコーディネーターをお務めいただきます。

(3)時程(3日間共通)

9:30~10:30	高等学校教員による授業
10:40~12:10	大学教員による授業
12:10~12:30	個別質問時間
13:30~15:00	当日の授業実践についての研究協議
15:10~17:00	当日のテーマについての研究協議

* 午後の研究協議は、教員対象です。1日のみの参加も歓迎いたします。奮ってご参加ください。

・派遣旅費につきましては、誠に恐縮ですが、貴校にてご負担くださいますようお願い申し上げます。

以上

問い合わせ先

県立寒川高等学校 澤野 理

TEL 0467-74-7699 FAX 0467-74-9012

E-mail: o-sawano@pen-kanagawa.ed.jp